

決定木モデルによる平成 30 年 7 月豪雨災害に おける住民避難行動の要因分析

杉浦聡志

北海道大学大学院

sugiura@eng.hokudai.ac.jp

神谷 奏有（株式会社ローソン），木曾壮人（北海道大学大学院）

住民の避難行動選択は複数の要因が組み合わされ，意思決定されているものと予想され，複雑な組み合わせ効果を陽に考慮した分析手法が必要だと考える．本研究では，住民の属性や環境・取得情報などの複雑な組み合わせを考慮可能な決定木モデルを用いて避難行動選択を分析する．決定木モデルは分類結果を導出した因子を説明可能であり，分析に基づいた政策検討のために有用な特性である．平成 30 年 7 月豪雨災害において被災した者を含む被災地住民への調査結果を用いて，避難の有無を分類する決定木を作成し，得られた決定木から避難行動要因の組み合わせを特定し，詳細な分析を行った．

キーワード：災害避難，避難行動要因，決定木